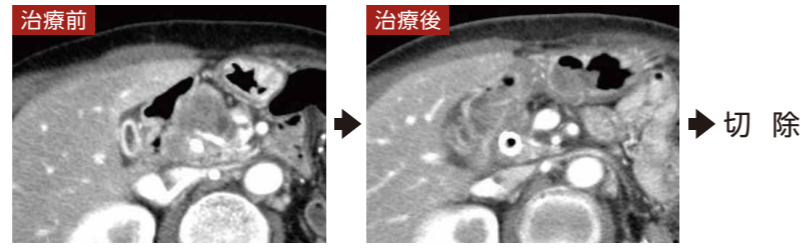


トピックス

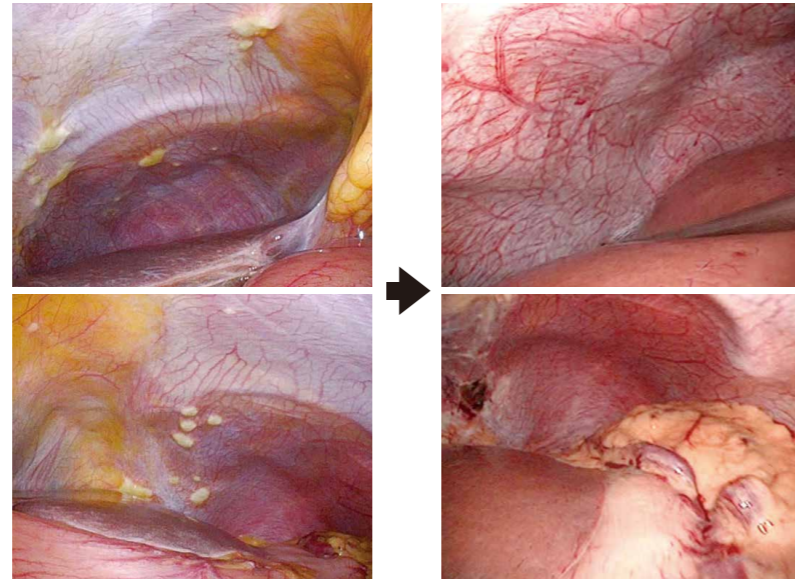
■切除不能膵がんに対する集学的治療で腫瘍縮小を認めた場合に対する膵切除術

初回切除不能と診断された膵がんに対する治療にも取り組んでいます。化学療法、放射線療法を行い、腫瘍縮小効果が得られ、画像上切除可能と判断した場合は、積極的に切除 (Conversion surgery) を行っています。その治療成績は、切除可能膵がんに匹敵する結果が得られています。



■腹膜転移を有する膵がんに対する臨床試験

膵がんの5年生存率は7%程度であり、約8割の患者さんは初診時に非切除の診断となります。中でも腹膜転移を有する患者さんは、腹水や腸閉塞を認めることがあり、治療を行うこと自体が難しいことがあります。われわれはそのような患者さんに対する治療にも取り組んでいます。臨床試験として、標準治療薬に加えて腹腔内にパクリタキセルを投与することを行い、良好な治療成績を得ました。また、2019年6月からクラウドファンディングを行い、研究資金の獲得を行いました。現在、多施設共同第3相試験として、本治療に対する研究を行っています。



CLINICAL REPORT 2022


関西医科大学附属病院
 KANSAI MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

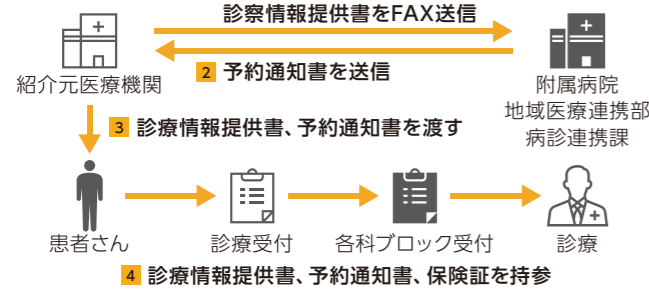
胆膵外科

診療教授

里井 壯平 胆膵外科

患者さんの紹介について

■紹介手順

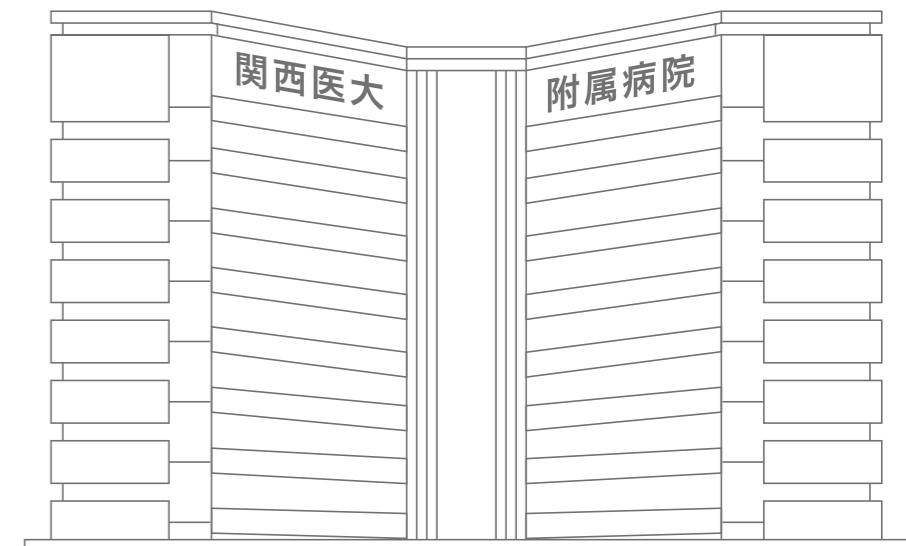


- 1 患者保険情報連絡票・診療情報提供書にご記入いただき、FAX【072-804-2861】にて送信していただきます。
- 2 送信いただいた患者保険情報をもとに当院の患者IDを作成。予約をお取りして予約通知書を送信いたします。
- 3 患者さんに診療情報提供書と予約通知書をお渡しください。
- 4 患者さんは診療情報提供書・予約通知書・保険証を持って、予約時間の20分前までに総合受付の【地域医療連携窓口】にお越しいただけます。

※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。

※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、下部の連絡先にご連絡いただけますようお願いいたします。

※受付時間 平日 8:30~20:00/土曜日 8:30~12:30



関西医大病院

関西医大病院

診療実績 (2021年度) ※2018年8月以降、肝胆膵外科から分離独立

外来新患者数	378人	入院新患者数	526人
外来延患者数	7,877人	入院延患者数	7,094人

治療成績 (2021年度)

■2021年(術式別)

膵頭十二指腸切除術	64件
門脈合併切除	13件
術後在院日数(中央値)12日	
膵体尾部切除術	30件
腹腔鏡	15件
腹腔動脈合併切除	3件
術後在院日数(中央値)10日	
膵全摘術	2件
腹腔鏡下胆嚢摘出術	158件
緊急手術	45件
腹腔鏡下総胆管切石術	19件

■2021年(疾患別:根治切除例)

膵頭部がん	34件
膵体尾部がん	22件
IPMN/IPMC	11件
その他膵疾患	13件
中下部胆管がん	15件
十二指腸乳頭部がん	9件
胆嚢がん	5件

診療アウトライン

胆膵領域の手術は難易度が高いことから、消化器外科専門医においても完遂困難な手術が多く、より優れた技能を必要とします。当科の特徴は、良性または良悪境界性疾患に対しては低侵襲で痛みの少ない(単孔式)腹腔鏡手術を積極的に行い、進行がんの多い胆膵がんに対しては化学療法などの集学的治療を導入し積極的に高難度手術に取り組み、良好な成績を収めています。現在、肝胆膵外科高度技能指導医1名、高度技能専門医3名、内視鏡外科技術認定医1名が在籍しており、胆膵外科専門病院の名にふさわしい体制で手術を実施しています。

トピックス

■胆石症や胆のう炎、膵臓の良性または良悪境界病変に対する(単孔式)腹腔鏡手術(低侵襲手術)

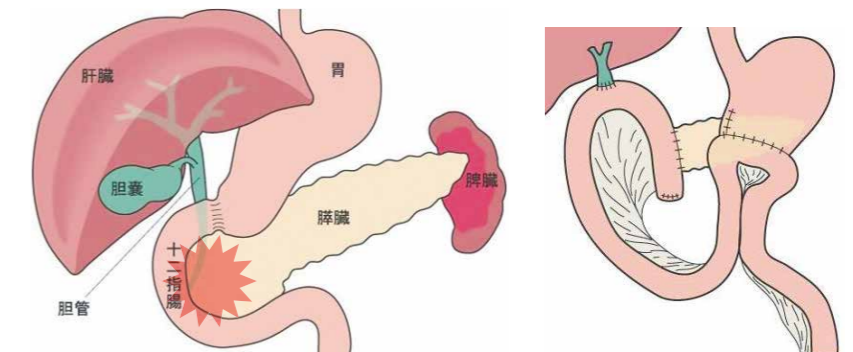
胆石症や急性胆嚢炎に対しては、腹腔鏡手術で行い、年間約200件程度行っています。年齢等を考慮し、単項式腹腔鏡手術も行っております。

膵疾患に対する腹腔鏡手術は年々増えてきており、安全で低侵襲な手術を提供しています。



■肝外胆道がん(胆管がんや胆のうがん、十二指腸乳頭部がん)や十二指腸がんに対する胆膵外科手術

膵頭十二指腸切除術は高難度手術であり、合併症も依然として高率です。当科の治療成績は合併症率50%、膵液瘻13%、術後在院日数14日と全国の施設と比較して良好な成績です。



■切除可能膵がんに対する膵切除術(血管合併切除を含む高難度手術)

最難治がんである膵がんに対する根治切除を目指し、正確な画像評価および血管合併切除術を積極的に行っています。切除境界型の膵がんに対しては、積極的に術前治療(化学療法、放射線療法)を行い、治療成績の向上に努めています。

■切除不能膵がんに対する審査腹腔鏡検査(微小遠隔転移の診断目的)

画像上切除不能局所進行膵がんに対して、審査腹腔鏡検査を導入しています。画像検査では捉えられない微小遠隔転移を検出し、病状にあった治療を行っています。

